

組合員に対する謝罪と納得いく説明も一切なく、呆れられ、しらけ切った「JR総連第40回定期大会近畿地協選挙区代議員選挙」!

”改めての立候補者は、津崎修さんだけ!”

JR総連近畿地協の常任委員である浦谷書記長（JR東海労新幹線関西地本）が、「選挙管理委員会の設置も津崎議長の立候補も知らされていない」「規約・規則に基づいた選挙が行われていない」と近畿地協の津崎議長と稲垣常任委員に連絡（意見）したことを理由に、近畿地協選挙区代議員選挙は、改めて、規約・規則に基づいた代議員選挙を行なうようになりました。

組合員に対する謝罪と納得いく説明も一切なく、呆れられ、しらけ切った代議員選挙は、4月12日に改めて公示され、代議員選挙の立候補締め切りが4月20日（土）17時でしたが、立候補者は津崎（近畿地協議長）だけだったようです。

嘘を言わずに、関係者に報告をして相談・調整すればいいこと!

4月8日に開催されたJR総連近畿地協常任委員会で再度、近畿地協の笹田副議長と浦谷常任委員は津崎議長に対して、「選挙やり直し（混乱）の原因と責任の所在を明確にして、組合員に説明・謝罪すること」そして「混乱を避けるためにも（今まで通り）立候補者間の調整を（小林さんと）やるべき」ことを再度提言しました。しかし津崎議長は、「そんなこと（小林さんと話をすればいい）は聞いていない」とか「（小林さんに）電話してもつながらない」などと嘘を言って、2人の意見を受け入れず、話し合い（調整）を拒否しました。

関西地本3分会長の『お願い』行為を「威圧行為・権利の侵害」だと決めつけ!

私たちは、これまでJR総連（近畿地協）に対して、公正で公平な組織運営を求めてきました。そして、この度のJR総連第40回定期大会代議員選挙においても、過ちを素直に認め、誰もが納得する大会代議員の選出を求めてきました。

関西地本3分会長はその思いを4月13日に津崎議長へ『お願い』文書で伝えました。そして早急に事態を打開するために立候補の調整をお願いしてきたのです。しかし、この『お願い』は無視され、4月17日に中央選挙管理委員会から『JR総連選管連絡第11号』が発せられ、3分会長の津崎議長に対する『お願い』行為は「立候補予定者に対する威圧行為であり、組合員の代議員立候補の権利の侵害」だと一方的に決めつけられたのです。

JR総連（津崎議長）は、なぜ話し合いに応じないのか?

なぜ組合員の質問に応えないのか? なぜ嘘をつき続けるのか?

私たちは、これからも、公正で公平な・誰もが納得する組織運営を求めて、真実を発信し続けていきます!